



**秋田ノーザンハピネッツのこども食堂
みんなのテーブル**

- 活動報告資料 -

2025年11月

秋田ノーザンハピネッツ県民球団宣言

私たちは、秋田ノーザンハピネッツが秋田のかけがえのない存在になることを目指し、ここに「秋田ノーザンハピネッツ県民球団宣言」を行います。



2011年10月15日に県民球団宣言をして以来、
秋田ノーザンハピネッツは秋田に密着した活動をおこない、秋田県民の皆さまとともに歩んできました。

秋田ノーザンハピネッツ株式会社について



秋田ノーザンハピネッツ

プロバスケットボールチーム
”秋田ノーザンハピネッツ”の運営ほか
ユース活動、バスケスクール、チア、
アカデミー教室などを運営



道の駅岩城“アキタウミヨコ”の運営

秋田県由利本荘市にある道の駅岩城
の指定管理者として、2023年4月から
道の駅岩城”アキタウミヨコ”として経営
しています。



ハチトニ製パンの運営

こっぺぱんなどを展開する”ハチトニ製パ
ン”の運営、ホームゲーム会場や直売所
への納品、その他イベント出店等による
パンの販売を実施しています。



パフォーマンスジム “the Factory”の運営

育成年代の強化、アスリート向けの育
成、健康志向の一般の方に向けたサ
ポートを目的としたトレーニングジムの
運営



“みんなのテーブル”の運営

全国初のプロスポーツチーム運営のこども
食堂かつ、秋田県では初めての常設の
こども食堂。秋田市内のひとり親を中心
に、どなたでもご利用いただけます。

SOIP2024

スポーツ庁プログラム SOIPの実践

秋田の魅力“きりたんぽ”をモデルとし
た高たんぱくなローカルヘルシーフー
ドの開発等を実施しており、スポーツ
庁主体の地域版SOIPの一環として、
全国最優秀賞を受賞。2023年～3年
連続でプログラムに採択されていま
す。

その他活動

エコキャップ運動や、こでん回収、フー
ドドライブ活動や、もったいないBOXの
設置などで地域貢献を目指していま
す。



秋田あくらビールの運営

秋田市大町に1997年に誕生した地ビー
ル醸造所”秋田あくらビール”を2022年か
ら事業を引継ぎ経営。2022年には世界一
にも輝いた秋田を代表する地ビール。





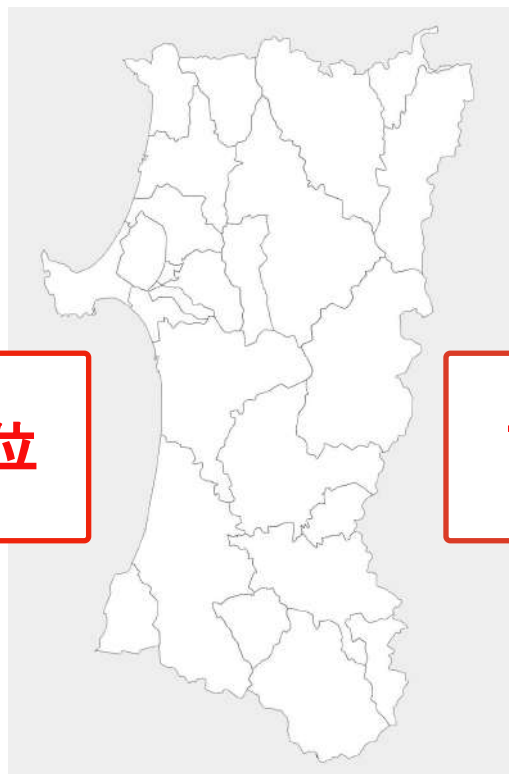
課題先進県の プロスポーツチームだからできる ここにしかない取り組みで未来を築こう。



2021年8月2日にSDGsへの取り組み表明を記者会見にて行い、
それ以降は上記のキャッチコピーのもと SDGs活動に力を入れてきました。

特に、常設のこども食堂”みんなのテーブル”の運営の開始は、
日本のプロスポーツチームでは初となる取り組みです。

人口減少率ワースト1位



高齢化率ワースト1位

出典：厚生労働省・内閣府・総務省

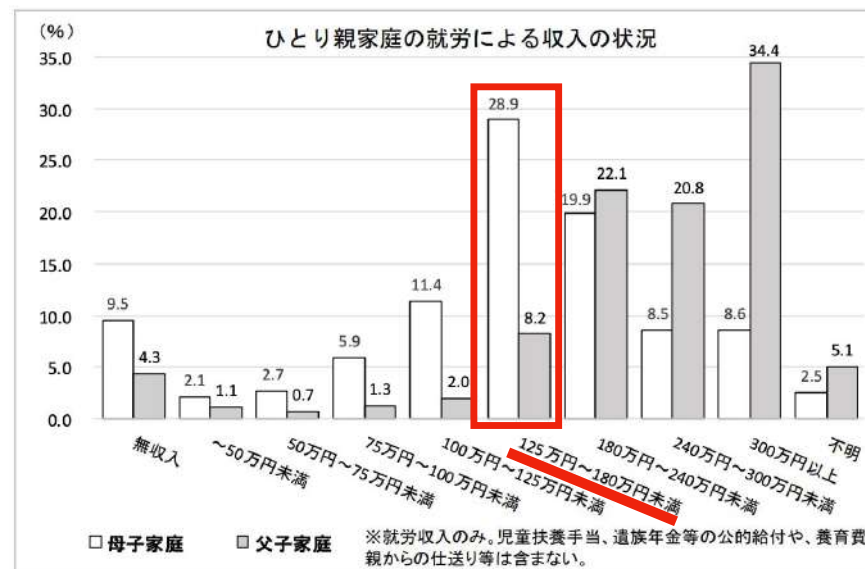
秋田ノーザンハピネッツが拠点をおく秋田県は
人口減少率、高齢化率が全国で一番高いことに代表されるように
さまざまなランキングでワースト 1位となっけてしまっています。
他の都道府県よりも課題が先をいっている秋田県は「課題先進県」と呼ばれることがあります。

< 秋田県内のひとり親家庭の子どもの数 >

16,689 人

出典:秋田県(令和3年3月)『第2次秋田県子どもの貧困対策推進計画』

< ひとり親家庭の就労による収入状況 >



出典:秋田県(令和3年3月)『第2次秋田県子どもの貧困対策推進計画』

秋田県の調査によると、秋田県内のひとり親家庭の子どもの数は 16,689 人となっている一方、県内のひとり親家庭の就労による収入状況を見ると、ひとり親家庭の就労による収入の状況は 125~180万円がボリュームゾーンとなっています。秋田県は車社会であるため、ひとり親世帯の多くも車を所持しており、車の維持費や家賃・水道光熱費、衣服等の生活用品の購入費用等を考えると、食費が切り詰められているのではないかという推察がたち、なおさらこども食堂の存在が必要なのではないかと考えました。

こども食堂新設の背景_秋田県内のこども食堂の不足

< 秋田県内のこども食堂の状況 >



< 秋田県内のこども食堂の数 >

※2021年3月当時

21カ所

※2025年10月現在

48カ所

出典:秋田県調査『秋田県内のこども食堂一覧』

< 秋田県内のひとり親家庭の子ども数 >

2023年2月13日【確定値】発表

都道府県名	2022年度調査結果										2021年度調査結果			
	こども食堂数	母点	(参考)小学校数	充足率(校区完備率)	充足率(%)	充足率順位	人口比(1/10万人)	人口比順位	2021年比増加数	2021-2022増加率(%)	こども食堂数(2021年)	充足率(校区完備率)	充足率(%)	充足率順位
北海道	244	2022.10.	959	187	19.50	37	4.71	35	10	4.27	234	18.00	39	
青森県	51	2022.09.	258	43	16.67	43	4.10	38	6	13.33	43	14.50	39	
岩手県	77	2022.09.	287	56	19.51	36	6.38	19	16	26.23	61	16.55	33	
宮城県	129	2022.09.	361	92	25.48	17	5.29	28	11	10.09	109	23.91	15	
秋田県	30	2022.03.	176	30	11.36	47	3.14	47	5	20.00	25	9.39	47	
山形県	52	2022.09.	229	43	18.78	39	4.92	33	5	10.54	47	15.45	38	
福島県	99	2022.09.	392	85	21.68	31	5.38	27	23	30.26	76	16.22	37	
茨城県	144	2022.10.	443	107	24.15	24	4.88	32	28	24.14	116	18.78	24	
栃木県	72	2022.10.	343	61	17.78	41	3.71	42	16	28.57	56	13.47	43	
群馬県	98	2022.10.	299	75	25.08	19	5.04	31	21	27.27	77	20.86	21	
埼玉県	342	2022.10.	800	151	18.88	38	4.63	36	88	34.65	254	21.09	20	
千葉県	232	2022.10.	748	183	24.47	22	5.68	43	59	34.10	173	19.82	22	
東京都	839	2022.10.	1,266	547	43.21	4	6.98	20	92	12.32	747	40.73	4	
神奈川県	426	2022.09.	848	204	24.06	25	4.62	37	54	14.52	372	22.80	16	

出典:認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

< 全国のこども食堂数の推移 >



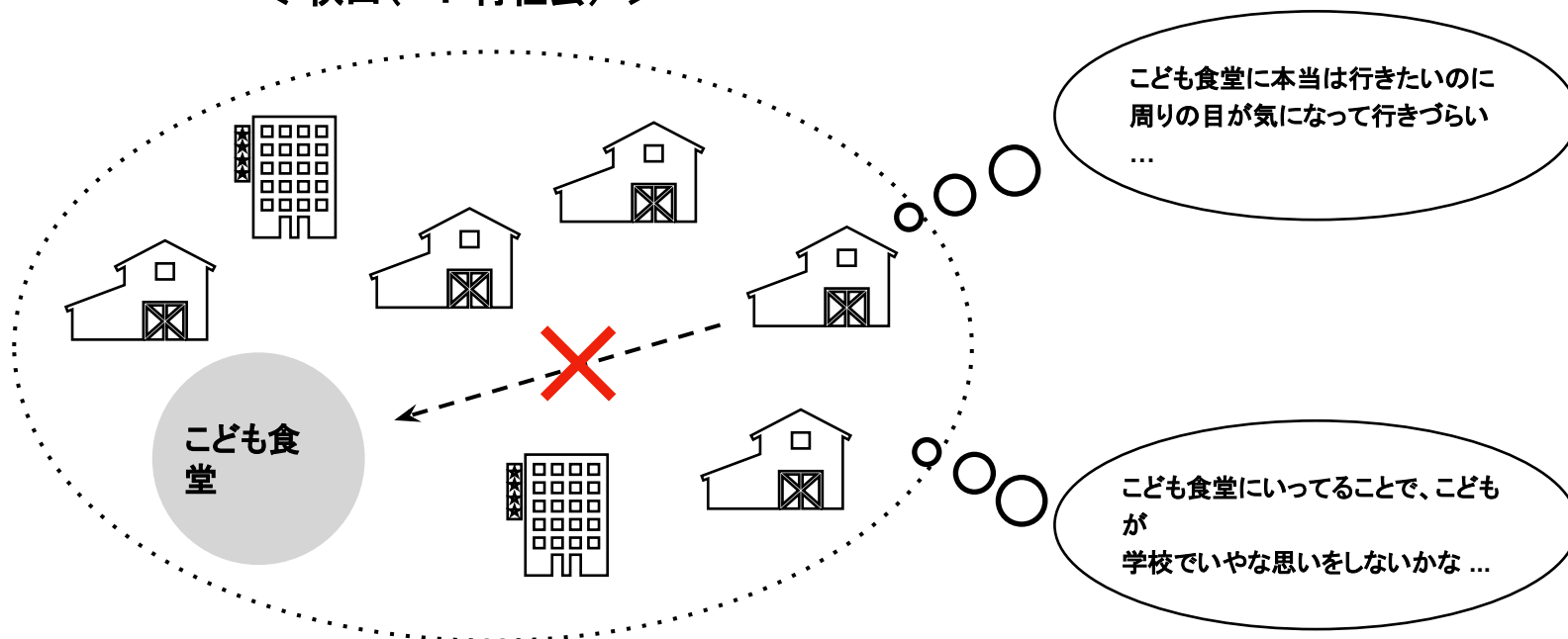
出典:認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

秋田県のこども食堂は、単発開催や、飲食店併設のモデルがほとんどです。

公的施設を使用しての月1~2回の開催、または飲食店を経営するところに附属しての開催が中心で、”こども食堂”として場所を構え、定期的に開催している”常設”のこども食堂は0カ所というのが実情でした。

また、秋田県のこども食堂は全国的に見ても2番目に少ない数となっており、充足率(校区にこども食堂がある小学校÷全県の小学校)も少ない地域であるという現状があります。さらに、こども食堂を立ち上げても、運営費用や人材難の壁にぶつかり、持続的に運営する体制がつかれないため活動の増減が多くなっているのも実情です。

< 秋田(≡ 村社会) >



秋田県ではまだまだ「村社会」の要素も残っているため、
必要にもかかわらず周囲の目が気になり子ども食堂に足を運べない人もいます。
子ども食堂に対してネガティブイメージが残っているのが実情です。

前ページまでの課題

- ・秋田県内のこども食堂の不足
- ・秋田県内のひとり親の現状



上記の解決策の1つとして、常設のこども食堂を新設し、運営しています。

また運営に際しては、秋田県庁・秋田市役所・社会福祉協議会・NPOなど、今まで活動をされてきた専門機関・組織と連携して運営にあたることで、未来を担う子どもたちを、地域社会全員で育むことができるスキームづくりを目指してしています。また活動のプロセスにおいて、プロスポーツチームのもつエンターテインメントの力を活かし、こども食堂のイメージを、明るく・楽しい・安心できる場所というイメージにアップデートし、諸々の課題の解決ならびに改善に寄与します。

"みんなのテーブル"開設に向けて

2021.7



第1回
子ども食堂実施



8



第2回
子ども食堂実施



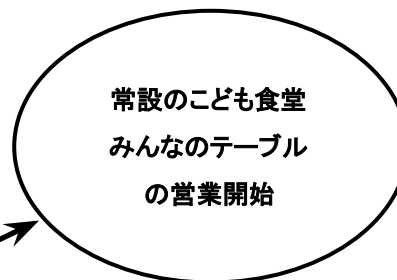
9



第3回
子ども食堂実施



10



11～

秋田ノーザンハピネットのこども食堂「みんなのテーブル」とは



「みんなのテーブル」はテーブルを「みんな」で囲み、食事をする事で、こどもたちの「おいしかった！」「たのしかった！」の笑顔を作り、居場所となることを最大の目的としています。

このテーブルから、未来を担うこどもたちを中心とした地域コミュニティーが生まれ、

おとなたちのさまざまなカタチの支援が産み出されていくことを目指します。

みんなのテーブルは「みんな」で育むテーブルです。

※2021年当時、秋田県では初めて、全国のプロスポーツチームとしても初めてとなる常設のこども食堂の開設でした。

営業日

火曜日・水曜日・金曜日・土曜日

※年末年始のみ休業

営業時間

各曜日の 16:00～20:00

料金

子ども(中学生以下):無料

高校生:300円

大人:1,000円(ひとり親:無料(週1回))

住所

秋田県秋田市広面字釣瓶町 140-1

駐車場:敷地内—8台

連携駐車場—8台

- 中学生以下の子どもは料金が無料となります。
- 児童扶養手当受給者(ひとり親かつ困窮している家庭)に向けて、秋田市役所からチラシを配布し、チラシを持参いただいたひとり親の方には会員登録をいただきます。会員登録をしていただくと、ひとり親の方も週1回だけ無料で食事をする事ができます。

成果:みんなのテーブルの利用者数(開設から 2025年9月末日まで)※のべ数 ※プレオープン・市外開催は含まない

利用総数

17,605名(6,892組)

ひとり親

5,766名

高校生

772名

中学生以下

9,808名

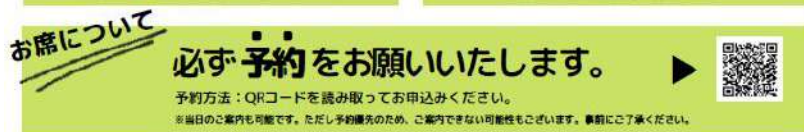
関係者(選手・スタッフ等)

211名

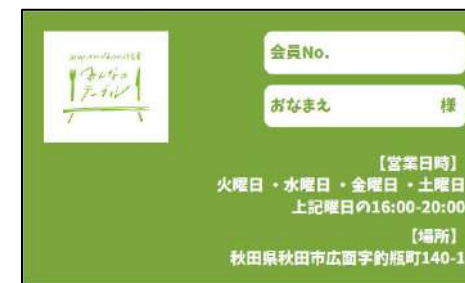
大人(有料)

1,048名

ひとり親世帯へのアプローチ



会員カード



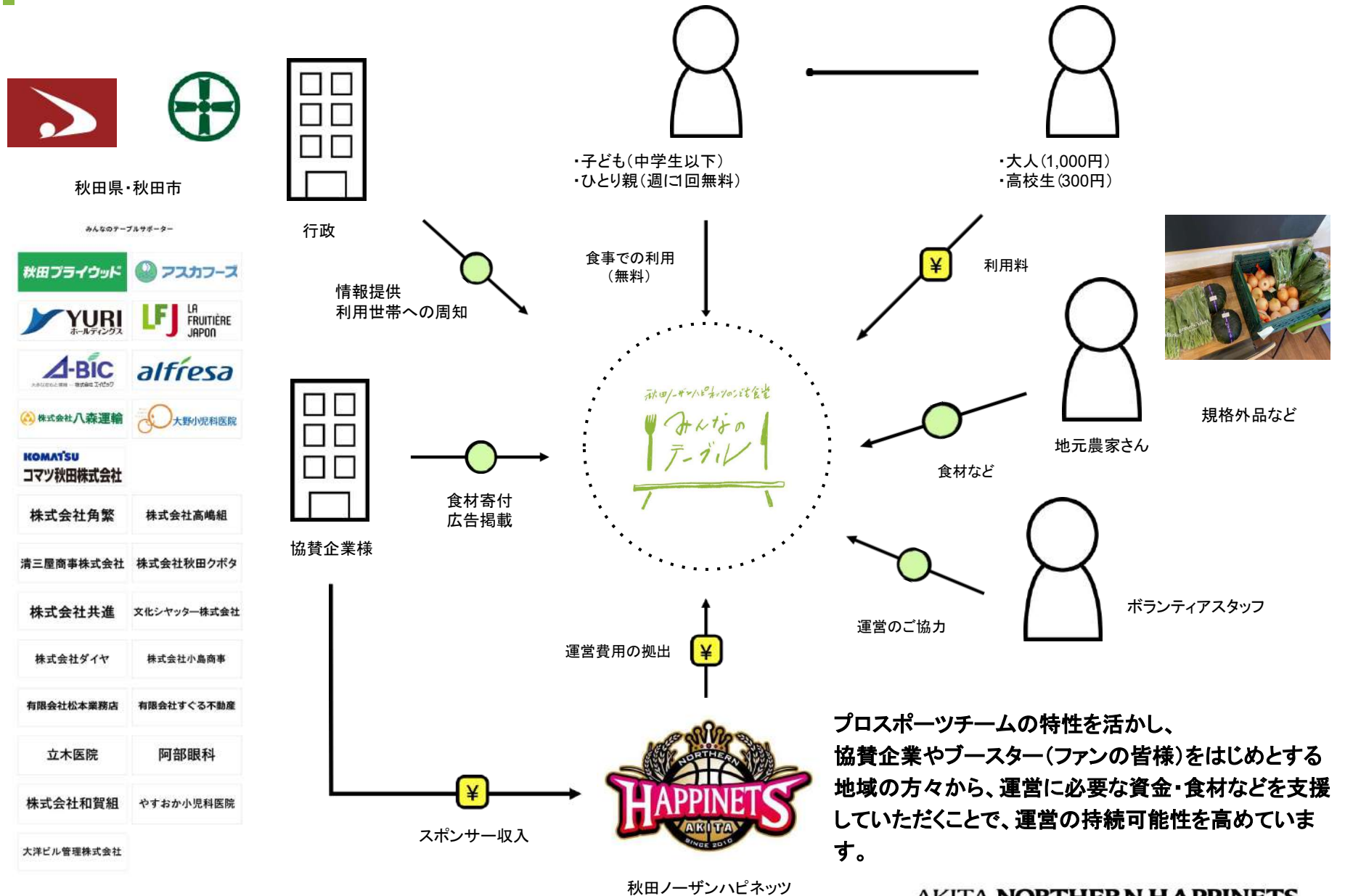
秋田市内の児童扶養手当受給世帯に対し、秋田市を通して無料招待券付チラシを配布しています。

基本的には年1回(毎年10月頃)に配布しており、このチラシをご持参いただいた方を「会員」として登録。

会員の方は、大人も週に1回無料になる、という制度になっています。

また、チラシがなくても、「ひとり親」と証明できるものや、児童扶養手当の受給通知決定書などでも登録はしており、来店された方に丁寧に説明をして利用しやすい環境づくりに取り組んでいます。

「みんなのテーブル」の仕組みの図



提供するお食事について

ご寄付いただく野菜を中心に、管理栄養士が監修したメニューを日替わりでご提供しています。

野菜等は当日ご寄付頂くものが多く、それらを有効に活用するためにも事前にメニューを確定できないのが現状です。

そこで、当日好きなメニューを選べるようにメインを AとBの選択制にしており、+ご飯+汁物+副菜2つ+デザートの6品を毎日提供しています。小学校高学年の児童を基準とし、一日に必要な栄養素をふまえ、管理栄養士が献立を立案し、規格外野菜などを有効に活用したメニューを作成しています。

献立の一例



◎選択メニュー

A: 桃豚の洋風肉じゃが

B: 五穀味鶏の卵とじ

◎共通メニュー

・ごはん

・ほうれん草と豆腐の味噌汁

・さば竜田の野菜あんかけ

・きゅうりとトマトのサラダ

・スイカ



ご寄付いただいた食材



提供するお食事について



成果: 地域連携_企業との連携②_豚肉の寄付

オフィシャルパートナーであるポークランドグループ様と連携し、毎月1頭分の豚肉を無償で提供いただく取り組みをはじめていきます。スポーツチームの特性を活かし、スポンサー企業様とともに取り組むことで、こども食堂の課題解決(運営資金不足や安心な食材の持続的な確保など)を目指します。

野菜等と違って規格外・販売に適していない部分があるわけではないため、企業の完全負担となりますが、弊社のこども食堂運営の理念にご賛同いただき、この取り組みがはじまりました。この取り組みの大きな特徴の一つは、弊社運営のこども食堂だけでなく、県内すべてのこども食堂を対象にお声がけし、地区ごとにローテーションする形式で、全県のこども食堂に豚肉の無償提供を実施しています。県産の安心・安全で栄養価のあるお肉が無償で手に入ることは、こども食堂の活動の大きな助けになり、県内9割以上の団体様と、これまでに連携をさせていただいております。こうした取り組みを仕組化することで、スポーツチームだからこそできる取り組みを、地域に貢献する形で発展していければと考えています。



成果:地域連携_企業との連携③

プライフーズ様

青森県に本社がありながらも、みんなのテーブルの趣旨・取り組みにご賛同いただき、毎月自社ブランドの“五穀味鶏”のもも肉・むね肉をご寄付いただいております。みんなのテーブルでは、メニュー名に、活用させていただいた料理には「五穀味鶏の〇〇」と名称をいれるようにしております。

五穀味鶏

小岩井乳業様

小岩井乳業様からは、牛乳やバターをご提供いただいております。特に、ご提供いただく新鮮な牛乳は、子どもたちの成長に欠かせない栄養源として、人気があり、高品質なバターは、風味豊かな料理作りに活用させていただき、食卓に格別の美味しさを提供していただいております。



中条たまご様

中条たまご様は、開設以来継続的にご支援をいただいている企業です。新潟県や石川県に農場を持つ会社で、規格外のたまごを継続的にご寄付いただいております。また、子ども食堂の近くにお住まいの関係者の方が継続的に配送して下さっており、多くの方々のおかげで、新鮮でおいしいたまごを使うことができます。



道の駅十文字様

主に夏季を中心に、地元で採れた新鮮な旬の野菜を豊富にご提供いただいております。自社の配送網を活用し、新鮮な状態のままみんなのテーブルまで直接届けてくださる迅速なご支援のおかげで、私たちは食材を最大限に活かし、子どもたちに地元の恵みを味わう、彩り豊かで栄養満点な料理を提供することができます。



丸果秋田県青果様

長年にわたり秋田ノーザンハピネッツを力強くご支援いただいている企業様です。そのご厚意により、みんなのテーブルにも毎週、新鮮で旬の秋田県産を中心とした野菜や果物をご寄贈いただいております。子どもたちに季節の移り変わりを感じられる彩り豊かなメニューを提供することができています。



秋田ノーザンハピネッツを日頃から支えてくださっている企業様に限らず、多くの企業様に取り組みにご賛同いただき、継続した活動につながっています。

成果: 地域連携_企業との連携_規格外野菜の寄付

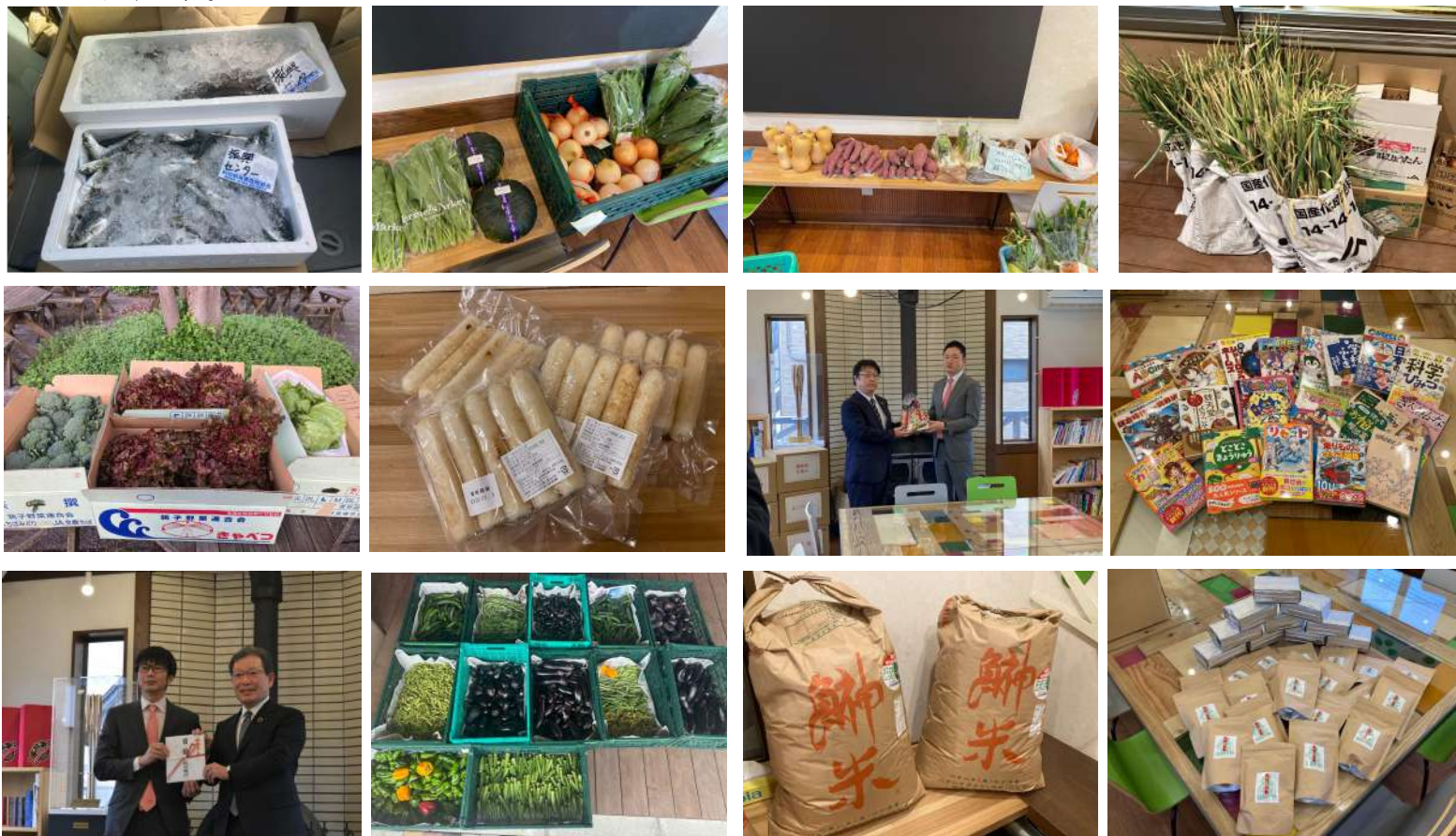
JA秋田なまはげ様が直営する野菜の直売所と連携し、規格外の野菜の提供BOXを設置いただいております。別事業(自社のパン納品)の運搬の際に、そのBOXから野菜を頂戴して、運営に活用をさせていただいくルートを構築しており、時期によっては野菜だけでなく、お米や生花等もご寄付いただいております。



また、上記のような取り組みに限らず、JAグループ秋田さまからは、継続して取り組みにご協力をいただいております。開設以来、全農あきたさま、中央会青年部さま、など、様々なグループから継続的なご支援をいただいております。

成果: 地域連携_地域住民との連携

これまでに 500を超える個人・団体の方から、食材等のご提供をいただいています。スポーツチームの特性としてファン・ブースターの皆様の存在がありますが、農家の方もいらっしゃり、そうした縁で食材のご寄付もいただいております。

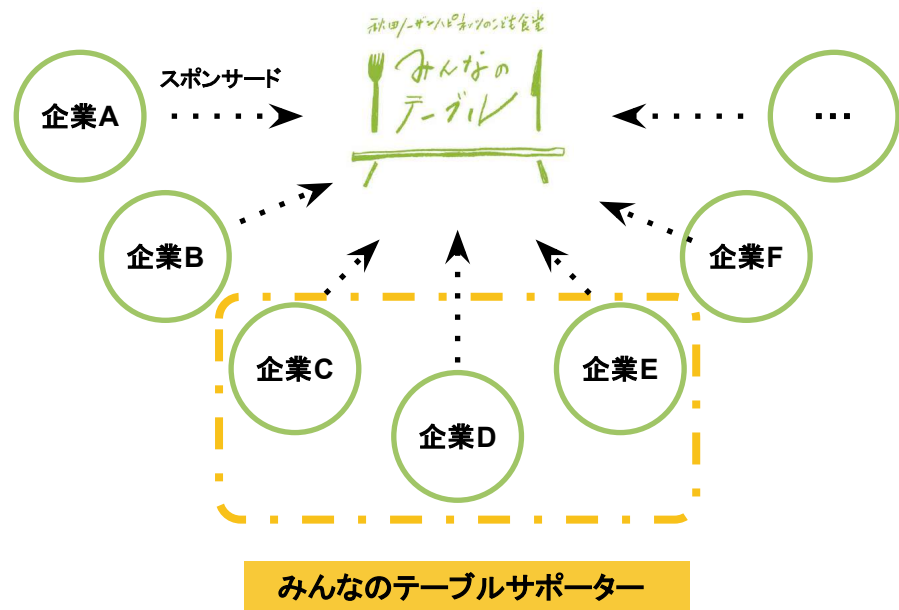


個人の農家さんからも継続的にサポートをいただいております。秋田市内に限らず、大潟村、五城目町、横手市など、地域の方々のサポートをいただいております。安心・安全な秋田県産の食材を活用した食事をこどもたちに届けることができます。

成果: 地域連携_企業との連携_こども食堂の活動へのスポンサード

こども食堂の運営には年間およそ 700～800万円の費用を必要としており、全国・県内の企業から運営資金のご寄付をいただいております。現在こども食堂に対しては 25社の企業にスポンサードいただいております、内 3社がプロバスケットボール事業へのスポンサードとは関係ないかたちで応援・支援をしてくださっています。みんなのテーブルだけでも支援したいという企業が活動に賛同してくださっていることは、”地域で子どもたちを育てる”というみんなのテーブルが目指すところに向けての強力な後押しであり、支援の輪をしっかりとつなぎ、今後も運営にあたっております。

<企業 25社からスポンサード>



「みんなのテーブル」の壁面には「葉」をモチーフにした装飾があり、そこにスポンサー企業様を掲出しています。



成果:地域連携_企業との連携⑤_プロスポーツチームの特性を活かしたその他の連携

マルダイ様

*** 取り組み内容**

食品ロス削減のための店頭でのシール貼付と寄付の仕組み。
ロスになりそうな商品にシールを貼り、お客様が購入すると 1枚につき
10円が「みんなのテーブル」へ寄付されます。

*** 効果とその目的**

運営側: 食品ロス削減に貢献。

お客様: こども食堂への貢献、購入を通じた社会貢献。

こども食堂: 運営費の確保、活動の周知。



城東スポーツ整形クリニック様

*** 取り組み内容**

所属するJSPO公認スポーツ栄養士と連携し、スポーツ栄養学の観点から
提供メニューの有効性に関する定期 WEB連載やレシピ公開を実施。

*** 効果とその目的**

食への栄養への興味・関心の向上。

アスリートや成長期の子どもたちにとって有効な食事に関する情報提供。



あきたアグリサポート様

*** 取り組み内容**

地元農家とのネットワークを活用した枝豆の収穫体験を実施。

収穫した枝豆は当日「みんなのテーブル」にて調理・提供。

*** 効果とその目的**

地産地消の推進。参加者(子どもたち)に料理のおいしさや奥深さを体感してもらう。



成果: 地域連携_こども食堂に関する小学校への選手訪問活動①

地域の障がい福祉施設・地元の小学校との連携事業を 2022年から実施しています。秋田ノーザンハピネッツに所属している選手とこどもたちが一緒に苗植えをします。こども食堂の理解を深めてもらう交流として出前授業も実施しています。収穫した野菜は、みんなのテーブルで活用します。

障がい福祉施設の方



耕作放棄地を畑に利用できるように整備・栽培管理。障がい者の活躍の場の広がり。

小学校の児童



授業の一環として野菜の苗植えの体験活動・学年を縦断してペアを組むことによる縦割り・協同的学習の位置づけ

みんなのテーブル



こども食堂の活動の周知(イメージのアップデート)と持続的な野菜の支援



毎年、2年生と5年生を中心に実施しています。雨天時は室内でレタス栽培をしています。



成果:地域連携_こども食堂に関する小学校への選手訪問活動②

秋田ノーザンハピネッツでは、自社でクラフトビール事業(秋田あくらビール)を経営しております。ビール醸造過程で出る麦芽カスは、一般的に産業廃棄物となり処分しますが、乾燥させ肥料用にする取り組みを実施しています。実際にこの前頁の小学校との連携で使用する畑にも肥料として使用をしており、環境によい取り組みを実践しています。



麦汁として活用したあとの麦芽には、たくさんの水分が含まれているため、そのままでは肥料として活用することができません。



においがあるため、密閉されたビニールハウスで乾燥させることで水分をとばし、肥料として活用できる状態にします。



産業廃棄物の削減だけでなく、肥料としても実際に使用することで有効活用しています。

運営にあたり欠かせないのが、ボランティアスタッフの皆さんの存在です。

高校生～70代の方まで、幅広い地域の方たちに、ご自身のライフスタイルにあわせて活動に参加していただいています。スポーツチームの特性を活かした弊社試合会場でのスポーツボランティアさんの活躍だけでなく、あきた子ども応援ネットワークからの紹介や、直接の応募など、きっかけは様々ですが、現在、約 40名ほどのスタッフに活動をいただいています。店内の装飾品も、季節ごとにボランティアの方が手作りで変えてくれています。また、秋田県は雪国ですので、冬季期間はどうしても除雪作業が必要になります。そうしたところでも、ボランティアスタッフの皆様に多くお力添えをいただいております、地域の方と協力して運営にあたっています。



地元の調理師会と連携し、季節にあった献立を楽しんでもらうイベントも開催しています。七夕や正月など、年4回、プロの料理人さんに腕を奮っていただいています。正月には餅つきイベントを開催し、こどもたちに初めての餅つき体験を提供することができました。ついたお餅を自分で食べてたくさんのこどもたちに笑顔になっていただきました。こども食堂のイメージのアップデートを目指すうえで、こうしたイベントには足を運びやすい家庭も多く、利用のきっかけづくりにもなっています。



成果:プロバスケットボール選手とのかかわり

チームスタッフや、選手もオフシーズンにこども食堂を利用しています。新型コロナウイルスの影響もあった時期・シーズン中は来店を控えていましたが、こどもたちにとって、地元のプロスポーツ選手との交流は貴重な経験となっています。ただ、こどもたちにとって良い機会となっているだけでなく、選手にとっても良い影響があります。

みんなのテーブルの食事は選手(プロアスリート)が食べることを考え、管理栄養士がたてた献立を中心に提供をしています。アスリートにとっても栄養価の高い食事ができることはもちろん、野菜や本の寄付といった活動であったり、試合への招待であったりという活動につながっています。



成果: 地域連携_

お米の寄付をたくさんいただいております、1粒も無駄にすることのないよう、おいしい状態を保つため、保冷庫を購入し、米の品質維持につとめています。

保管庫は、秋田市内の連携 NPO様のオフィスに設置しており、共用することで米のベース拠点として、県内の様々な団体にもいきわたるように調整をしています。※農家さんに県内団体への配布として事前に許可を得ています。

また、お米だけでなく、桃豚や、試合会場でのフードドライブ活動、その他企業との連携を通じて、県内子ども食堂との連携を強化し、その持続性を高めることを目指しています。



上述のような取り組みを通して子ども食堂のモデル化を目指しています。また、講演活動等に参加し、子ども食堂のイメージのアップデートにも継続的につとめています。



また、秋田県は全国でも子ども食堂の充足率が低いという課題を抱えています。そこで、スポンサー企業様と連携し、拠点のある秋田市だけでなく、ほかの自治体でも定期的に子ども食堂を開催しています。1ヵ月に一度定期的の実施し、行政とも連携をしながら、利用者の“居場所”として機能するようにつとめています。



地域の小学校・中学校・高校の体験学習を積極的に受け入れています。特に小・中学生は、ご家族との利用にもつながっているだけでなく、食材のご寄付のネットワークが広がったりもしています。生活科や総合的な学習の一環としての機会となっており、子ども食堂のイメージのアップデートに寄与しています。



MAFF

Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries
農林水産省

こどもまんなか
こども家庭庁

秋田県初！「食育活動表彰」の受賞



農林水産省が実施する第9回食育活動表彰において

審査員特別賞を受賞いたしました。

こども家庭庁にも視察にきていただきました。



教育関係者・事業者部門【企業の部】

秋田ノーザンハピネッツ株式会社

秋田県
活動期間：3年

審査委員特別賞

プロスポーツチーム初となる、常設のこども食堂「みんなのテーブル」の運営

こども食堂「みんなのテーブル」の運営	プースター（ファン）や パートナー企業様と連携した取組
「みんなのテーブル」は、2021年10月に秋田市で開設された常設のこども食堂です。主に秋田市内のひとり親世帯や地域の子どもたちを対象に、温かい食事を提供しています。この取組は、地域の多くの個人や企業の前さまでのご支援に支えられて運営が成り立っています。毎週4日営業で、管理栄養士が監修した栄養バランスの取れた日替わりメニューを提供し、子どもたちが元気に過ごせるようサポートしています。また、こども食堂は単なる食事の提供だけでなく、地域の子どもたちにとって「明るく」「楽しい」居場所となるような環境作りを大切にしています。今後も、地域の皆さまと一緒に、この活動をさらに広げ、支援の輪を広げていくことを目指してまいります。	試合会場内でのフードドライブの実施や、こども食堂での餅つき体験、秋田県産米を使用した商品の開発など、食を通じた多彩な活動を展開しています。フードドライブでは、試合観戦にいられた方々に食品の寄付を呼びかけ、地域の困っている方々を支援しています。また、こども食堂での餅つき体験を通じて、子どもたちに食文化の大切さを伝えています。さらに、秋田県産米を使用した商品の開発で地元の農産物を活用し、地域経済のサポートを目指しています。加えて、自社のビール事業で排出される麦芽粕を肥料として再利用する取組も行い、循環型社会の実現に貢献しています。これらの活動を通じて、地域の社会課題解決に貢献しています。
 「みんなのテーブル」店内	 日替わりで バランスのとれたメニュー
「地域で育てる」こども食堂のモデル化を目指して	
「みんなのテーブル」は、多くのボランティアや農家の方々、地域団体、企業の皆さまに支えられて運営されています。私たちは、地域全体のこども食堂の持続化を目指し、地元企業と連携して秋田県産「桃豚」の提供ネットワークを構築しています。ほかにも、地元の食材を積極的に活用することで、地産地消の取組にもつなげています。また、地元小学校と連携し、選手たちと一緒に苗植えや収穫体験を行うことで、子どもたちに食の大切さや農業の重要性を伝えることのできる食育の活動も実施しています。プロスポーツチームだからこそその影響力や広がりがつくれる強みを活かした地域・社会とのつながりの活動を通じてこども食堂の運営支援を続け、食育を通じて未来の担い手を育てていきます。	試合会場で実施する フードドライブ こども食堂での餅つき体験 お米を使用した新商品の開発 地ビールの麦芽粕の肥料化
 毎月残額1部分をご寄贈 いただいております	 地域の小学生と選手による 野菜の苗植え



第9回食育活動表彰において、「審査委員特別賞」をいただき、心より感謝申し上げます。こども食堂の取組においては、これまでに延べ12,000人以上に食事と居場所を提供することができましたが、これは決して弊社一社の方力だけではなく、共に活動して下さる皆さまのおかげです。今後も、スポーツチームの特性を活かし、秋田県の地域・社会課題解決に向けた取組を続けてまいります。

秋田ノーザンハピネッツ株式会社
代表取締役社長 水野勇気

「スポーツチーム型のこども居場所モデル」の普及事業（ B.LEAGUE×日本財団まちづくり助成）



公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグと公益財団法人日本財団は、地域課題解決を推進する取り組みにおける連携をさらに強化し、「まちづくり」をテーマとした「B.LEAGUE×日本財団まちづくり助成」事業を開始しており、「スポーツチーム型のこども居場所モデル」の普及事業も採択いただいています。

本事業のゴールは、当チームが築くこのモデルを全国のBリーグ・Jリーグのクラブ等へと広げ、地域特性に応じた持続可能な子どもの居場所づくりを実現することです。プロスポーツチームが地域課題の解決に貢献する存在となる社会の実現を目指し以下の3つの事業を実施します。



①常設型の居場所づくり

- 旧こまちベビー園に、遊びと食を兼ね備えた常設拠点を開設
- みんなのテーブルをモデルとし、週3日こども食堂を開設
- 選手、社員も活用できる食堂として機能

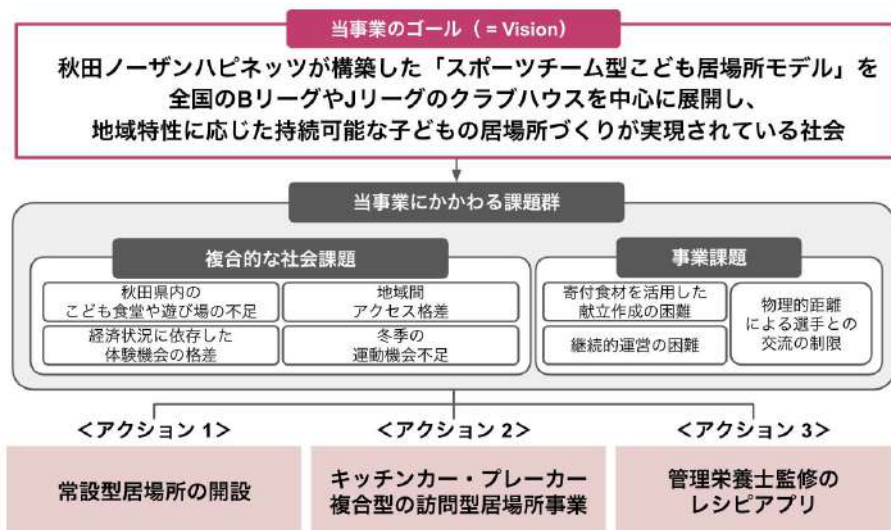


②訪問型の居場所づくり

- 既存のキッチンカーを活用しラッピング
- 行政と連携した各地でのこども食堂＋ジュニアスポーツ教室をベースとした身体づくりの機会の提供
- 2025年9月～2026年2月までに秋田県内全25市町村を訪問

③レシピアプリの開発

- 既存のみんなのテーブルのレシピを中心に、寄付してもらった食材などを入力すると、管理栄養士の知見を活用した栄養価の証明できる献立を自動立案、レシピも可視化
- 本事業の予算をベースに、システム開発社を公募予定



新設のこども食堂「秋田ノーザンハピネットのこども食堂 みんなのテーブル 秋田ノーザンゲートスクエア店」



秋田ノーザンゲートスクエア

既存店舗は、“みんなのテーブル”広面店と名称を変更し、これまでと変わらず運営を続けます。今回は、“みんなのテーブル”秋田ノーザンゲートスクエア店を新設し、2店舗体制となります。



新店舗イメージ図



< プレオープン日 >

9月27日(土)

< オープン日 >

10月2日(木)

営業日

木曜日・金曜日・土曜日

営業時間

各曜日の 17:00～20:00

席数

約20席

料金

子ども(中学生以下):無料
高校生: 300円
大人: 1,000円(ひとり親:無料(週 1回))

住所

秋田県秋田市中通 7丁目1番 2-3号
秋田ノーザンゲートスクエア 1F

その他

遊び場等も
拡充予定

AKITA NORTHERN HAPPINETS

秋田ノーザンハピネッツのこども食堂事業への連携について(両社で取り組む検討事項)



	こども食堂の運営サポート	駅を活用した学びの場づくりの検討	両社で連携したフードロス削減に向けた検討	バスケットボールを通じた地域交流に向けた検討
連携内容	秋田ノーザンハピネッツ株式会社とJR東日本秋田支社でこども食堂に関するスポンサー契約を今後締結	こども食堂の利用者を中心に駅等で実施するお仕事体験イベントへの招待を検討 	JR東日本秋田支社及びグループ会社と連携し、フードロス削減に向け、こども食堂への食材提供を検討	こども食堂の利用者と両社のバスケットボールチームに所属する選手との交流機会創出を検討
期待効果	こども食堂に関する情報発信を連携して取組むことにより、幅広い方々の利用機会へ繋げること	こども食堂の利用者を中心とした地域のこどもの学びの機会提供 	こども食堂の食材不足改善や多様な食材確保により、多くの方々の利用機会創出を図る	地域の方々との交流を図ることにより、こどもたちへスポーツの楽しさを広めること

秋田ノーザンハピネットのこども食堂事業への連携_取り組み例(両社で連携したフードロス削減に向けた検討)

連携内容	期待効果
JR東日本秋田支社及びグループ会社と連携し フードロス削減に向けこども食堂への食材提供を検討	こども食堂の食材不足改善や多様な食材確保により、多くの方々の利用機会創出を図る

JR東日本グループ



AKITA NORTHERN HAPPINETS

成果:みんなのテーブルの利用者の声

＜こども食堂のイメージの変化＞

「もっと利用しづらいと思ってたけど雰囲気がよくて気持ちよく利用させてもらってます」

「食事をするだけの所と思っていたが、実際は会話がありアットホームな雰囲気でした」

「行きにくい雰囲気を想像していたけど街のカフェみたいな雰囲気が入りやすかったです」

「参加しにくいイメージだったが、スタッフの方々がとても親切で子供にも話しかけてくれるので、気軽に参加できるイメージに変わった」

「この春から高校生になります。少し利用しづらいですが、とてもいい取り組みだと思います。物価高で生活が苦しいけど、それを言えない方がいると思います。もっと、沢山の方に知ってもらえたらいいのに」

「思ったよりも明るくて楽しい雰囲気でした。お友達とも偶然会って楽しく過ごしました。」

「利用後に、明るい雰囲気オープンであったこと、キッチンスタッフの方達フレンドリーで親切だったことがとても嬉しかったし、安心して食事を楽しめました。お金を払ってもまた利用させて頂きたいと思いました」

＜食事について＞

「もっと質素な献立だと思っていたが、とても豪華で驚きました」

「当初のイメージはもっと質素で一汁一菜的な食事と想像してたので豪華でバランスも考えられた食事でした。ひとり親の知り合いに声かけしたりしてます。」

＜”みんなのテーブル”を通して見られるお子さんの変化＞

「静かに食事ができるようになった」

「綺麗に食べるようになりました」

「週一の楽しみにしている」

「キレイに残さず、食べるようになった」

「だらだらとご飯を食べることがなくなりました」

「食べに行くかと声をかけてもらえて嬉しそうです」

「食材に興味を持つ様になった」

「一緒に出かける事が増えました」

「食べ物に興味を持つようになった」

「あいさつを少し言えるようになった」

「食べ物の栄養について、よく質問してくれるようになりました」

「バスケットに興味をもつようになった」

「病気の為、時々しか、学校に行けてないので、
唯一、外出するきっかけになってます」



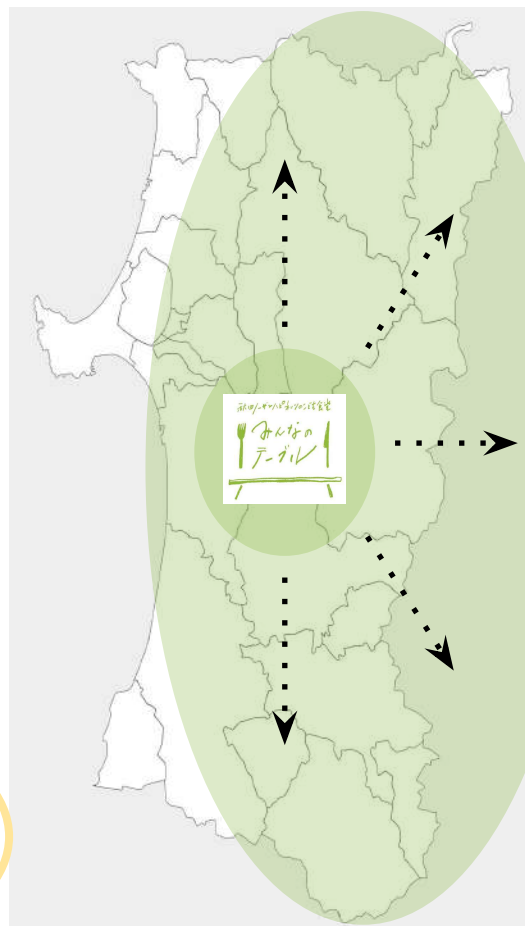
みんなのテーブルが目指すもの

秋田ノーザンハピネッツは、こども食堂の活動を通じて、
県民球団として地域のハブとなり、下記のビジョンを達成することを目指しています。

こどもたちの笑顔を中心とした
地域コミュニティを築き、
秋田の未来づくりに貢献する。



“みんなのテーブル”を
モデル化することにより、
他地域のプロスポーツチームでも
取り組める状況を作る。



ほかのこども食堂への食材・備品寄付の仕組みを
構築することで、運営費用を抑え、
多くのこども食堂が持続的な運営を
することができる状態にする。



秋田ノーザンハピネッツは、これからも “みんなのテーブル” やその他活動を通じて社会貢献活動に継続的に取り組めます。